

ホームと家族を結ぶ

おとずれ 151号

社会福祉法人 任運社 特別養護老人ホーム 任運荘

〒879-6601 大分県豊後大野市緒方町馬場 796 番地 1

事務室：0974(42)2338 寮母室：0974(42)3322

任運社総合相談支援センター 0974(42)4211

任運荘ホームヘルプステーション 0974(42)3351

※ 任運社内では介護職を『寮母』と呼びます

F A X : 0974(42)4187

E-mail : info@ninun.or.jp

<http://ninun.or.jp>

編集・発行

任運荘広報委員会

社会福祉法人 任運社 敬老会

平成29年9月18日(月)は敬老の日でした。任運社では、なごみ塾のホールにて敬老会を開催しました。

最初に廣本理事長が「長生きは最良の善、長年にわたって社会に貢献して今を作ってこられました。これからも元気で長生きして下さい」とお祝いの言葉を述べました。また、来賓の老人クラブ会長の工藤隆様、馬場区長の菅原正美様よりお祝いの言葉を頂きました。

任運荘で表彰されたのは左記の方々です。

【上寿】

佐藤 亀代さん 107歳

【白寿】

児玉 ハチヨさん

後藤 タケさん

【米寿】

佐藤 富子さん

首藤 隆光さん

高山 ツヨシさん

後藤 イサヲさん

※年齢は9月18日現在



上寿のお祝いを受ける佐藤亀代さん



後藤タケさん



児玉ハチヨさん



意見発表する渡部長義さん



任運荘職員による寸劇より

担当 敬老会実行委員

任運荘の吉野施設長が、「皆さんが長生きして良かったと思って頂けるように職員一同努力していきたいです」と祝辞を述べました。そして、任運社よりお祝いの品を河原雪夫さんが代表で受け取られました。また、利用者の意見発表では、インタビュー形式で渡部長義さんが、ふるさと訪の時の感想や任荘での生活の感想を述べました。

アトラクションは、任運荘職員が【貧乏神】の寸劇と恋ダンスを披露しました。最後に、騰々舎の吉田施設長がお礼の挨拶を述べ、敬老会は無事に終了しました。

任運社合同大運動会

10月1日(日)は秋晴れに恵まれ、任運社合同大運動会が開催されました。

橋本祐輔地域福祉推進室長が開会宣言を行いました。昨年優勝した白組より優勝杯の返還があり、廣本理事長から「今年も優勝杯を取れるよう頑張ってください」との言葉をかけられています。また、利用者家族を代表して眞部友子様が「今日は思いっきり楽しみましょう」とあいさつされました。



ご挨拶をいただいたご家族の眞部友子様



サンシャイン池袋による準備体操

紅組団長の渡部長義さんと甲斐修さんが力強く「今日一日、頑張る事を誓います」と選手宣誓を行いました。

準備体操は、お笑いをこよなく愛する【サンシャイン池崎】ではなく、体操をこよなく愛する【サンシャイン池袋】が登場して利用者の緊張をほぐしてくれました。皆さん大きな声で「イエイイ」と気合いを入れて競技スタートです。

最初の競技は利用者全員参加の『ボール送り』です。隣の人へボールを送る参加者の皆さんの表情は真剣そのものです。



紅組団長 渡部長義さん(左)
白組団長 河原雪夫さん(右)



利根正子さん(中央)からボールを貰おうとする志賀フキエさん(右)

2番目の競技は『玉入れ』です。各色の応援団長(職員)が籠を持ち、利用者が紅白玉を入れる競技です。皆さん一生懸命籠に玉を投げ入れていました。



掘五男さん(左)
川上キヌコさん(右)



中学生と後藤千代子さん 嶺八千代さん、入りましたか? 良い笑顔です

3番目の競技は『大玉コロコロ』です。利用者のご家族も参加され、とても盛り上がりました。



家族と一緒に柴田フサ子さん(左)
後藤イサヲさん(右)



家族と一緒に田近スズエさん(右)
橋照さん(左)



佐藤眞子さん(右)
板井タキ子さん(左)



私達かわいいでしょ！

任運荘職員によるアトラクションは、動物に扮したダンスを披露しました。「かわいいなあ」と皆さん笑顔で応援していました。



甲斐喜代子さん(右)
和田静子さん(左)



三谷高明さん(右)
古庄信子さん(左)



『立派な稲』と衛藤文子さん



親子で稲刈り、眞部タマエさん

今年の任運荘競技は、『緒方五千石』と題し、稲刈りをしてかけ稲をする競技です。6月に皆さんで田植えをしました。本番の稲刈りに向けて、予行演習も兼ねての競技です。一束ずつに分けた稲を刈る手つきも良く、昔を思い出されていたのではないのでしょうか。また、大蛇(マムシ)が稲刈りの邪魔をしようとしていましたが、皆さん鎌を使って退治していました。



深田アイ子さん
真剣な眼差しです



村上昌子さん
上手く刈れたかな



高山ツヨシさん
かけ稲が上手です



大蛇を退治してから、かけ稲をされた引田民子さん



ボランティアの緒方中学生と先生



佐藤シズコさんは親子で参加です



衛藤キヨさん、上手に取れますね

利用者最後の競技は『ひもじくなつたわあ』です。棒に穿たれたゼリーを皆さん上手に取っていました。応援に来られた家族や職員、そしてボランティアの緒方中学生も参加し、会場は大いに盛り上がりました。

応援して下さったご家族と、運動会を盛り上げてくれた緒方中のボランティアの皆さんに厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

担当 運動会実行委員

閉会式で白組の優勝が発表されました。優勝杯が廣本理事長より白組団長の河原雪夫さんと羽田野俊則さんに手渡され、2時間に亘る熱い戦いはケガ人も無く、無事に終了することができました。



みんなで白粉塗りです

運動会最後の競技は、職員による『私、キレイ?』です。粉で満たされた箱の中のアメ玉を口で取る競技です。粉で白くなった職員顔をみて、皆さん大笑いしました。

任運社初盆供養・盆踊り

8月18日(金)の18時30分より、初盆を迎えられた利用者を偲ぶ『任運社初盆供養・盆踊り』が行われました。日中、陽射しが強く、心配しましたが、夕方実行委員が打ち水を行ったので、始まる頃には暑さも和らいでいます。初盆供養会場の平和祈念堂の前には、任運荘騰々舎の利用者、職員が集まり、任運荘の馬場寮母の司会で始まりました。



東住職による供養経



手を合わす阿南公子さん

任運荘で初盆を迎えられたのは左記の方々です。

- 岡野マチヨ氏(97歳)
- 後藤ミドリ氏(94歳)
- 倉原イツコ氏(92歳)
- 森 ハルミ氏(101歳)
- 長門 長喜氏(85歳)
- 吉良 千里氏(98歳)
- 甲斐不二子氏(91歳)
- 広瀬 公明氏(89歳)
- 渡辺 光子氏(92歳)
- 工藤 篤 氏(89歳)
- 谷 一郎氏(91歳)
- 古庄ヨシコ氏(99歳)
- 清水シズ子氏(96歳)
- 麻生 治 氏(93歳)

初盆供養者が紹介され、大福寺の東住職による供養経が静かに行われました。職員が香炉を持ってまわり、一人ひとり焼香を行いました。参列者は静かに両手を合わせられておりました。今年の任運社の初盆供養者は、任運荘14名、騰々舎6名でした。

供養教が終了すると次は盆踊りです。会場の周りでは小松明(こだい)が灯され、幻想的な雰囲気になりました。そして、女性職員の浴衣姿に利用者は大変喜んでおりました。

盆踊りの曲は、『しあわせ音頭』『ゆかた音頭』『火の国太鼓』の3曲です。利用者が作る輪の内側で職員が盆踊りを披露しました。曲に合わせて手拍子をする方や職員の見ながら手や腕を動かす方もいました。今年も輪の中央で職員が太鼓を叩き盆踊りを盛り上げました。3曲踊った後に、かき氷が振る舞われ、皆さんは嬉しそうに食べていました。

盆踊りの後は、皆が楽しみにしていた花火大会です。打ち上げられる花火に、「きれい」や「すごい」、「いよ〜」とあちらこちらから歓声があがりました。



太鼓で盛り上げる佐藤美和寮



職員の浴衣姿です

最後に、騰々舎の吉田施設長が閉会の挨拶をし、無事に盆行事は終了しました。夜間にもかかわらず、お越しくださったご家族の皆さん近隣の皆様方、本当にありがとうございました。

担当 盆行事実行委員会



花火にうっとり



盆踊りの様子です



笑顔の稲刈り

実りの秋を迎え、10月14日午前、中庭で稲刈りをしました。この稲は、6月13日に皆さんで植えた任運荘の小さな田んぼで実った稲です。

竹を組み立て、干す準備が出来たところで、小さな田んぼから刈り取った稲を掛干しました。先輩方(利用者)より「稲の束を7と3に分け交互にかけると落ちるので」と教えていただきました。皆さん大事そうに稲わらを分け、それを職員が掛けました。わらの感触と香りを懐かしみながら！

イノシシの被害は避けられましたが、スズメの猛攻撃には勝てず、頭(こうべ)を垂れた稲は半分ほどでしたが、初めてづくしの米作りは、利用者の皆さんを笑顔に出来たことが一番の収穫でした。

担当 森園美



稲を分ける後藤タケさん



職員と一緒にかけ稲する
小野春子さん



任運荘の小さな田んぼで
実った稲です



刈り取った稲を眺める
甲斐喜代子さん



かけ稲をされた
田近スズエさん



刈り取った稲とポーズ
衛藤キヨさん



職員と一緒に稲刈りする
衛藤文子さん



手慣れた手つきで稲を
分ける後藤千代子さん



「こう分けるんで」と
深田アイ子さん



かけ稲を眺める
古澤マチコさん



「私もさせてください」と
柴田フサ子さん



任運荘のかけ稲
出来上がりました



かけ稲を眺め懐かしそ
うな顔の利根正子さん



「どこにかけるの」と
阿南公子さん



刈り取った稲を眺める
107歳 佐藤亀代さん

緒方保育園こあら組来荘

10月5日(木)の午前中、緒方保育園こあら組の園児21人が来荘しました。

利用者は、園児達を見るだけで自然と笑顔になり、園児達が大きな声で元気よく歌ってくれると、一緒に歌ったり拍手をされたり、なかには目に涙を浮かべられている利用者もいました。

歌い終えてからは、利用者の中に園児達が入って、肩を叩いてあげたり手を握ってあげたりすると、利用者の方々は本当に満面の笑顔で、見ている私達も笑顔になりました。

最期に、園児達から利用者へプレゼントを頂きました。利用者の皆さんが見えるように、ホールに飾りました。緒方保育園のこあら組のみなさん、引率の先生方、本当にありがとうございます。

担当 宮崎 正規



娘さんと一緒に参加された河原ヨシ子さん



園児達を見て笑顔の佐藤シズコさん



緒方保育園こあら組のみなさんです



園児達からプレゼントを頂きました



気持ちよさそうですね濱嶋伊津美さん



肩を叩いてもらう柴田フサ子さん



利用者の前で元気よく歌ってくれました

外出ドライブ

10月12日(木)に、五嶋ナルコさんが以前から行きたいと言われていた『足手荒神社』に、首藤文彦さんと一緒にお参りに行ってきました。五嶋さんは、きれいにお化粧して久しぶりの外出を喜ばれていました。首藤さんは初めての外出に少し興奮していました。

出発し、首藤さんは外の景色を大きく目を開けて見ていました。「外が見えますか」と聞くと、大きな声で「見ゆる」と答えてくれました。五嶋さんもじつと外を見ていました。足手荒神社に着くと、銀杏がたくさん実っていました。「きちんとお参りできましたか」と聞くと、「あー」と答えられ少しホッとした表情でした。

お参りの後は、竹田の道の駅まで足を延ばし、外の空気にいっぱい触れました。帰りの車中では、お二人とも疲れたのか気持ち良さそうに眠っていました。

次の日、「昨日は外出されたんですね」と五嶋さんに声をかけると、「へえ、参っちきた」と笑顔で答えられました。

担当 佐藤 里香



五嶋ナルコさん



首藤文彦さん

ふるさと訪問

柴田 フサ子さん

渡部 長義さん

古庄 信子さん

小野 春子さん



旦那さんの遺影を囲んで
家族写真を撮りました

8月12日に緒方町越生の自宅に帰りました。お孫さん、曾孫さんたちと大勢でお昼ご飯を食べました。メニューは本人大好物の『こねり』や『豚のしょうが焼き』『そうめん』でした。午後は白杵から甥夫婦も帰られ賑やかに楽しい時間を過ごしました。そしてご仏壇に参り「私、昔この家に住んでいたよ。うな気がする」と言うので皆で大笑いしたそうです。「お盆参りが出来て良かったです」と笑顔で帰ってこられました。

担当 森 園美



奥さんへ花束のプレゼントです

9月14日に竹田市の自宅へふるさと訪問をしました。道中、景色を見ながら「皆さん、私の家を道をよく知っていますね」と嬉しさ一杯の様子でした。家に帰り着くと少し照れながら奥様が待っていました。若い頃は、米作りや和牛、菊の花作りをしていた渡部さんは、家から見える田や畑を懐かしそうに眺めていました。庭の松の木や池、石なども「山から取ってきたりして私が造ったんじゃない」と自慢の庭のお話をされました。お昼はお嫁さん手作りの大好物『魚たイチジクです。一番美味しい』を食べられ、お話しも沢山されて楽しい一日となりました。

担当 森 園美



庭に咲いていたキンモクセイ、懐かしい香り

9月28日、緒方町の原尻の自宅へふるさと訪問をしました。食べ頃をむかえた『イチジク狩り』を楽しみしながら大きな籠を持っていきます。自宅に着くと息子さんが玄関の横を通って裏庭にまわると、明るい景色が広がり、キンモクセイの花が優しい香りを放っています。辺り一面のイチジクの木が沢山の実をつけて「おかえり」と言ってくれているようでした。古庄さんは「あつ」と声を出して見上げています。息子さんが「お母さんが植えたイチジクですよ。一美味しい息子さんの顔を見ながら美味しいイチジクを食べられ大満足の時間でした。

担当 森 園美



家の前で家族写真を撮りました

10月26日、大野町の自宅へふるさと訪問をしました。小野さんのご主人の17回忌の法要に併せて実施されました。ご仏壇にお参りすると懐かしそうに、ご主人の写真を見上げていました。息子さんが「お母さん、これから親族が集まり懐かしい人たちに会えるよ」と話し「ああそうな」と笑顔でした。息子さんたちに囲まれ楽しい時間を過ごしました。

担当 森 園美

さつまいも 頂きました

9月6日(木)に、「以前ここにお世話になった仲田清馬の家族です。さつまいもがたくさんできたから食べてくださいか。」と大きなさつまいもをたくさん、軽トラックに積んで奥様と届けて下さいました。

仲田さんは、「先日、法要を行った際に、昔、任運荘にお世話になった事を皆で話したんですよ」と言われました。調べてみると仲田清馬さんがお亡くなりになってからは、約二十五年が過ぎています。数名の職員が覚えていましたが、お亡くなりになった今も私達の事を思っ下さり感謝の気持ちで一杯です。頂いたさつまいもはサラダやみそ汁、おやつなど利用者のおいしい食事にさせて頂きました。
ありがとうございます。



担当 吉野 明子

立派なさつまいもです

干し柿づくり

11月12日(日)恒例行事の干し柿づくりを行いました。

まずは渋柿の皮むきです。皆さん、昔取った杵柄、素晴らしい包丁さばきでどんどん皮がむかれていきます。特に上手な利用者は、皮が途中で切れることなくむいておりました。皮をむき終わった渋柿を職員が紐で結え、竿に吊るして干し柿づくりは終了しました。

今年は寒くなりそうなので、きつとおいしい干し柿ができる事でしょう。皆さん食べられる時をいまかいまかと心待ちしております。

今回の干し柿づくりに、渋柿を提供してくださいました、下自在の合澤様、久土知の三代様、本当にありがとうございます。

担当 宮崎 正規



上手に皮むきをしています
柴田フサ子さん



皮むきをする志賀フキエさん（手前）
へた取りする引田民子さん（奥）



真剣な表情で皮むきする
後藤イサヲさん



甘くておいしい干し柿ができる
ことを期待しています



笑顔の嶺八千代さん 職員と
一緒に柿を紐で結んでいます



107歳の見事な包丁さばき
佐藤亀代さん

つぶやき

後藤ユキエさん



「後藤さんは今でも可愛いですね」と言う

「あなた、可愛いと言われたら喜ばないけんのぞ」と笑顔でひとこと。

後藤イサヲさん



「イサヲとか、男みたいな名じゃろ？真剣に働きよった人の名前を私はもううたんでーそれじ一丁五反の田を作りよったと教えてくれる。

衛藤 キヨさん



廊下で

「ちよっとー」

と大きな声で呼ばれたので慌てて駆けつけると

「あなた、肥えたなあ」

とびっくりしていた・・・。

柿原 幸夫さん

体温計を出しながら

「今日はお熱ありませんよ」と言う
「健康じゃな」

と大きな声で返事をしてくれた。

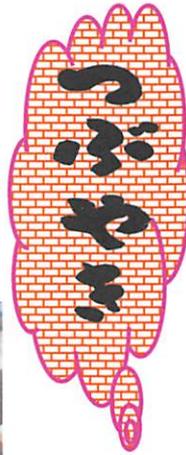
五嶋ナルコさん



念願の足手荒神様にお参りできたので次の日に

「外出はいかがでしたか」と聞くと

「へえ、お参りしち来ました」と笑顔。



穴見富貴子さん



ホールを通りかかると「せんせーい」

と大きな声で呼ばれたので

「先生は穴見さんの方ですよ」と言う

「あらっ、私はいつ先生になったかや」と考えていた。

真部タマエさん



「ばあちゃん、大根ができてよ」とお嫁さんの報告。

そばで聞いていた看護師が

「真部さん、私も大根頂いていいですか」と声かけると

「どうぞ」とはつきり言葉が聞かれました。

高倉ユリ子さん



転んでケガをした職員に

「お互いに気をつけましょうな」と励ましてくれる。

柴田フサ子さんの娘さん



「いつも一＋一は？と聞くとわざと一と答える母が今日は二と答えるんですよ。今日はなんか違いますね」

と娘さんから教えてもらったので検温すると微熱が出ていた。

さすがです！

～任運社地域福祉推進室便り～

12月是一年の終わりでありますが、新たなる明日のために来し方を振り返る時期でもあります。みなさまの一年はどのようなものでしたか？

私事で恐縮ですが、平成12年になごみ塾を退職して以来17年ぶりに福祉の現場に復職させていただきました。任運社は卑小なる我を成長させてくれた良き学校であり、辞めてからは常に心の拠り所となるホームグラウンドでもありました。いま故吉田嗣義会長の著作を読み返す毎に会長の福祉と教育への深淵なる洞察と情熱にあらためて触れる毎日です。任運社創設以来掲げてきた理想の実現に一層の努力と奮起を感じざるを得ません。

いま、超高齢化社会と人口減少という人類未曾有の現実にたいして社会福祉法人の地域における一層の役割が求められています。所在地である緒方町はすでに高齢化率50%超という高い状況であり、対応は待ったなしの状況です。そうした中で任運社では社会福祉充実計画を策定し、地域福祉充実のための新たな拠点施設の建設に取りかかっています。だれでも気軽に福祉サービスの相談が出来るとともに、地域のみなさんが交流を深め、お互いが協力しながら地域のために支援できる場所にする予定です。完成は夏以降を予定しています。ご期待ください。

任運社地域福祉推進室長 橋本祐輔

施設内研修

11月9日(木)に感染症対策委員会より『感染性胃腸炎(ノロウイルス)対策マニュアル』、『消毒手順』について、身体拘束排除委員会より『養護施設等における認知症と精神疾患の理解』の施設内研修を行いました。

感染症については、例年、施設内研修で行っていますが、いざという時の為にすぐに対応できるようにと、今回は感染症対策委員の文東明美寮母が職員の前で手技を行いながら説明しました。

これからの時期は、インフルエンザやノロウイルス感染が発生しやすくなります。利用者の表情や体調の変化への気づきが重要になります。また、職員も各自で体調管理に気を付けていかなければなりません。「早期発見が施設内感染を防ぐ！」



感染症の説明を職員は真剣に聞いています

【12月の行事】

- 19日(火) 任運大学・誕生日会
- 24日(日) 利用者忘年会・クリスマス会
- 26日(火) 利用者職員対話会
- 29日(金) 任運社納会

【1月の行事】

- 4日(木) 任運社互礼会

★広報委員のひとり言

私が『おとずれ』の担当になり、やっと3回目の発行を迎えることができました。今年度は4回の発行目標を掲げています。あと1回、がんばるぞ〜！

さて、任運社ではホームページを開設しています。(アドレスは1ページ目に掲載しています)随時更新を行っており、『おとずれ』で掲載していないイベントや写真をアップしています。ぜひ、任運社のホームページへお越しください。